

## 編集委員会から

### 表紙の色

日本食品工学会誌の表紙の色は毎年変わっていることにはお気づきと思います (<https://www.jsfe.jp/journal/kaiho/21/2102/k1.pdf>)。現編集委員長は副編集委員長であった第20巻(2019年)分から表紙の色の選定も担当しています。表紙の色が固定されている学術雑誌もありますが、日本食品工学会誌では巻を間違えないようするために寒色系と暖色系の色を交互に使用しています(緑や紫は中性色なのですが寒色系としています)。七色を用いている雑誌もあるようです(赤・橙・黄・緑・青・藍・紫ではなく、赤・橙・黄・黄緑・青緑・青・紫のような色です)。

この7年間、寒色・暖色の交互使用は維持しつつも食材に関係した色を候補にしました。第20巻は柿、第21巻はミント、第22巻は桃、第23巻は茄子、第24巻は檸檬、第25巻は萌葱、第26巻は苺です。しかし、印刷所が使用可能な色の都合で、上記の色に近い色になりました。過去7年間とは重ならないように工夫しています。(第27巻の候補は紫芋なのですが、正式には未定です。)

第22巻からは表紙のデザインも変わりました。これまでは約10年に1度、デザインが更新されています。更新時の表紙のデザインは会員の皆様から公募したものです。今後も表紙も含めて日本食品工学会誌に親近感をお持ちいただければ幸いです。

(新潟大学 田中孝明)

